

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第56回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

医科歯科連携における摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア・マネージメント 古屋 純一 先生

岩手医科大学歯学部
有床義歯補綴学分野准教授

平成24年3月28日(水) 17:00～18:00
歯学部C棟1階 大会議室

抄録

口から食べること(摂食・嚥下)は、人生の最後の瞬間まで残る楽しみであるだけでなく、人間としての尊厳を保つ重要な毎日の営みである。栄養を摂取するためには嚥下が重要だが、円滑な嚥下や食事の楽しみのためには咀嚼が重要である。すなわち、咀嚼・嚥下という口腔機能を最大限に引き出し、口腔を守ることは、生命を守ることであり、生活を守ることでもある。

しかし、現実的には、急性期・回復期・維持期を問わず、口腔が守られているとは言いがたい状況も多い。チーム医療が声高に叫ばれて久しいが、口腔の専門家として歯科関係者ができることは何だろうか？

本講演では、演者がこれまで医科歯科連携の中で行ってきた臨床を踏まえ、以下のポイントについてお話し、皆様と一緒に口から食べることについて考えてみたい。

1. 蕎麦はのどごし？
2. 摂食・嚥下障害≠誤嚥？
3. 発見して→つなげる、リハビリテーション
4. 口腔ケアから口腔ケア・マネージメントへ

連絡先: 第56回モデレーター 小山重人 (顎口腔再建治療部)